

多文化共生、 グローバル社会で生きる

—— コース紹介



～はじめに～

人生100年時代の学びプログラムは、2025年度に5年目を迎えます。

プログラム始動当初より、『多文化共生、グローバル社会で生きる』コースのコーディネーターを務める、小西 幸男 全学共通教育センター 准教授に、コースの特徴や魅力について伺いました。

～『多文化共生、グローバル社会で生きる』コースの特徴～

—— 「グローバル社会にまつわる幅広い学びを提供します。」

グローバル社会や多文化共生を学ぶ上で大切なのは、違いを理解することです。

国によって抱える問題が様々であるように、求められる政策もまた様々。

海外で評価された政策を日本に導入したとしても、上手くいくとは限りません。

国の歴史や地形も違えば、国民の価値観も違うからです。海外と日本を比較した際に生まれる違いを、「違い＝悪い」として捉えるのではなく、歴史や地形、文化も違う国なのだから「違って当たり前」と、捉えることが大切です。このようにまず、海外と日本を比較した際に生まれる違いを理解するところから、グローバル社会や多文化共生について学んでいきます。

また、グローバル社会にフォーカスするだけでなく、「昭和」、「平成」、「令和」など、様々な世代の価値観、社会観にも目を向け、違いを理解し、どのように共存していくのかについても考えます。

ほかにも、講師が提供する題材だけでなく、自分が興味のあることについても学べる、「学びの間口が広い」という特徴があるコースです。

～どのような授業が行われるのか～

――「インタラクティブな授業を体感できます。」

「講義科目(選択科目)」では、現役の甲南大学生と本プログラムの履修生が、同じ教室で同じ題材について考え、意見交換や議論をすることも。

若い頃に培った価値観はその後の人生の、ものの考え方に影響します。世代が違えば同じ題材でも、捉え方や意見が異なるのは当たり前です。授業中、現役の甲南大学生と本プログラムの履修生とで、考え方が分かれることもあります。大切なのは、意見の違いを優劣で捉えるのではなく、意見交換や議論を通し、理解し合い、多様性を知ることです。海外の人と文化の違いを理解し合うように、世代間の違いを理解し合うこともまた、多文化共生であると、授業でも伝えています。

「リカレントワークショップA(必修科目)」では、授業を聴くだけでなく、本プログラムの履修生が、意見交換や発表を行う機会があります。授業を聴いて内容を理解するだけでなく、意見交換や発表を踏まえた、インタラクティブな授業に参加することで、自分とは違うバックグラウンドを持つ人の考え方や意見に触れる、「大学ならではの学び」が体感できます。知見を深めるためには、自分と違う視点で物事を捉える人と、共に学ぶことが重要だと考えています。

～何を見つめ、何を学ぶのか～

――「大学での学び直しを通して、自分と、社会と、どう向き合っていくか考えます。」

本プログラムの履修生の中には、これまでのキャリアに関わらず、好きなこと、興味のあることについて深く学ぼうとする方が多いです。例えば、「日本に根付いた茶道の文化と、海外のお茶の文化（ティータイム）の違いについて」、「貧困によるこどもの教育格差」など、文化、歴史、社会、ジャンル問わず、興味のあることについて探求します。好きなこと、興味のあることを、知識として再認識するだけでなく、その魅力を他者に発信できる人になることを目標に、授業に挑んでほしいです。

また、これは「人生100年時代の学びプログラム」のどのコースにも言えることですが、履修生の多くは、大学での学び直しを通して、自分が生きた時代やキャリアを振り返り、これから先どのように社会と向き合っていくのかを、考えたい人だと思います。

人はキャリアを形成すると、教える側の立場になることが多い傾向がありますが、本プログラムの履修生は、今まで築いてきたキャリアに関わらず「学び直し」をし、自分をアップデートしていく方が多いです。

例えば、本コースで1年間学ばれた後に、同プログラムの別のコースで、もう1年学ばれた方。さらには、60代

70代の履修生で、本プログラムで学んだ後に大学院に進学された方、新しい形で現場に戻って社会参加された方など、熱心に「大学での学び直し」に取り組まれる方がいます。

～講師からのメッセージ～

――「履修をご検討のみなさまへ。」

本プログラムで学んだことがきっかけで、社会貢献について考えるようになった、ボランティア活動に参加した、新たなキャリアを築いたなど、様々な方がいます。

本プログラムの履修生にとって、『多文化共生、グローバル社会で生きる』コースで学んだことが、日々の活力や新たなステップへ進むきっかけになっていれば嬉しいです。

マンネリ化した普段の生活に、刺激のある時間を設けるために、ぜひ大学へお越しください！！